

# 西ノ島町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定

人の集う島へく暮らしを彩るまち・ひと・しごとの循環くを目指して

日本の人口は、2008年に1億2,808万人のピークを迎え、このまま推移すると2060年に約8,700万人まで減少するとされています。

西ノ島町でも、人口は引き続き減少傾向にあり、進学・就職を理由とした若者世代の流出、未婚率の上昇が続いています。このまま推移すれば、2035年に総人口は2,000人を切り、2060年には1,000人にまで減少すると推測されており、更なる少子高齢化の進行や税収の落ち込み、基幹産業の衰退など様々な影響が懸念されます。

国は、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的として、まち・ひと・しごと創生法を公布・施行しました。

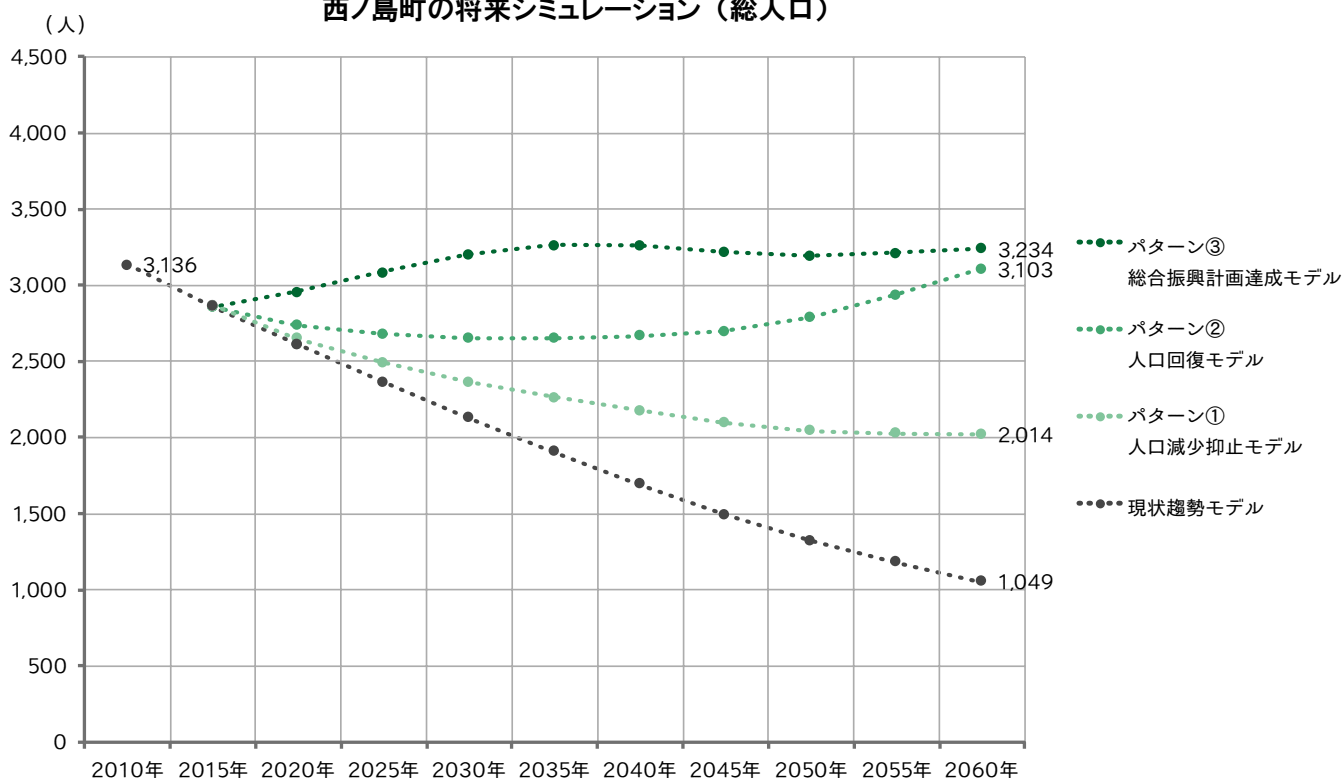
そして、西ノ島町では、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国が示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」等を踏まえた、西ノ島町まち・ひと・しごと総合戦略を策定しました。

今後、西ノ島町では、総合戦略ともに平成25年度に策定した西ノ島町総合振興計画に基づき、「人の集う島へ」の実現をめざし、西ノ島町ならではの取り組みを行っていきます。

※「西ノ島町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「西ノ島町人口ビジョン」の全文は西ノ島町ホームページに掲載しています。

# 人口ビジョン

西ノ島町の将来シミュレーション（総人口）



国立社会保障・人口問題研究所の西ノ島町の人口推計では、2060年には1,049人まで減少するとされています。

西ノ島町では、目指すべき将来の人口規模を検討するため、国の示す推計ワークシートを活用し、将来人口シミュレーションを実施しました。人口を持続的に保つためには、少なくとも人口減少を食い止める必要があります。そこで、シミュレーションでは以下3つのパターンで実施し、それぞれの実現に必要な定住促進規模を算定することで、その現実性を検証しました。

**パターン①：人口減少抑止モデル** 2060年までに人口減少を抑止する

**パターン②：人口回復モデル** 2035年までに人口減少を抑止し、2060年までに2010年人口と同水準まで回復させる

**パターン③：総合振興計画達成モデル** 2022年までに2010年人口と同水準まで回復させ、その後その水準を維持する

今後は、現状の取り組み規模の1.5倍に相当するため、決して達成が容易ではありませんが、持続的かつ現実的な将来人口規模として妥当である人口減少抑止モデルを目標に、本町の目指す姿「人の集う島へ」が実現出来るよう取り組んでまいります。